

【談話】

文化庁「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の発表にあたって

2019年1月23日

全日本教職員組合（全教）

書記長 小畑 雅子

文化庁は、2018年12月27日に「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（以下、「文化部活動ガイドライン」）を発表しました。

「文化部活動ガイドライン」は、文化部活動の実態や私たちの要求を反映し、スポーツ庁「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（以下、「運動部活動ガイドライン」）を踏まえ、「適切な休養日等の設定」として、「週当たり2日以上休養日」等、週当たりの休養日や1日の活動時間の基準を示すとともに、「ある程度長期の休養期間（オフシーズン）」「定期試験前後の一定期間等・・・の部活動休養日」を設けることなどを例示しました。これは、子どもたちへの過度な負担や教職員の長時間過密労働を解消する上で一定の指標を示すものです。

また、「適切な指導の実施」として示した「生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶」や「健全な成長の確保の観点から休養を適切に取ること」「発達の個人差や成長期における体と心の状態等に正しい知識を得た上での指導」などは必要な指摘です。今後、各学校の教職員での民主的集団的な議論を経て、実態に応じた具体化が求められます。

さらに、「学校単位で参加する大会等の見直し」として、「大会等や地域の行事、催し等の統廃合や簡素化等」や「数の上限の目安等を定める」こと、「全国組織及び文化部活動を参加対象とする各種大会等の主催者」に「大会等の規模もしくは日程の在り方」などの見直しを求めていることは、過度な活動を抑制する上で重要です。今後、競争の過熱化をまねいたり、生徒や教職員の過度な負担にならないよう、全国的な規模の大会・発表会等のあり方の見直しを行うことが求められます。

一方、「文化部活動ガイドライン」は、改訂学習指導要領が「部活動については・・・学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもの」と明記し、「教育課程外で行われる部活動と教育課程内の活動との関連を図る中で、その教育効果が発揮されることが重要である」とし、スポーツ庁「運動部活動ガイドライン」にはない観点を位置付けています。「文化部活動ガイドライン（素案）」において示された「音楽的な見方・考え方や造形的な見方・考え方を働かせ・・・資質・能力を育成する」などの表現は削除されているものの、全体として文化部活動に改訂学習指導要領を押しつけるものとなっています。

また、「終わりに」において、「我が国が『文化芸術立国』を目指すための様々な取組を進めつつある中で、文化部活動は子供たちが生涯にわたって芸術文化等の活動に親しむ基礎を形成する意義を有する」としていることは、文化部活動を国が求める「人材」育成のためのものに変質させる危険性があります。子どもたちの自主的自発的な活動として行われる文化部活動にまで、学習指導要領を押しつけ、国の求める「人材」育成のためのものにするべきではありません。部活動は、子どもたちの自主性自発性を前提とした教育課程外の文化・スポーツ活動であることを明確にするとともに、その活動は学習指導要領に拘束されることなく、各学校で自主的に計画・実施されるべきです。「文化部活動ガイドライン」は、

「文化部活動の方針の策定等」として、顧問に年間の活動計画や毎月の活動計画及び活動実績を作成し校長に提出することを求めています。教職員のさらなる負担増や自主的な活動の抑制につながる危険性があります。顧問まかせにせず、生徒の声を聞き、職場での民主的集团的議論によって学校全体の体制づくりを行うことが必要です。

さらに、「文化庁において、学校教育における人材育成からトップレベルの芸術家の育成まで一体的に行う」などとするとともに「関係団体等は・・・児童生徒を早期からの本格的な育成へ導くことができるよう、指導者養成も含めた仕組みの確立に向けて取り組む」としていることは、「文化部活動ガイドライン」策定の趣旨から逸脱するものであり、部活動のあり方を歪める危険性を持つものです。

全教は、「文化部活動ガイドライン」策定にあたって、文化庁の意見照会を受け2018年11月14日『「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（素案）」に関する全日本教職員組合の意見』を表明しました。文化部活動を、子どもたちの文化芸術活動の要求に根差し人間的成長・発達を保障するものとし、同時に教職員の長時間過密労働を解消するためには、さらに多くの検討すべき課題が残されていると考えます。全教は、子どもたちの文化芸術活動に対する要求に応え、すべての子どもの成長・発達を保障する観点から、そのあり方について、父母・保護者、地域住民、関係機関との議論を深め、合意づくりを広げていく決意です。

以上